



～おやこの知育～

はじめに

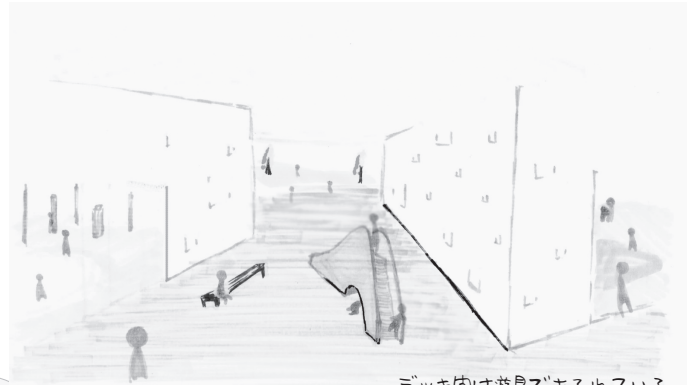
少子化による待機児童は、現在26000人と増加傾向にある。

現在、保育士と児童施設場所の減少という問題が発生しているため、幼稚園と保育園の一元化が課題となっている。さらに、最近では両親の共働きが増えている。このことにより、親子間のコミュニケーションの減少、ゲーム等の普及、発達により屋外で自由に遊ぶこと自体減ってきてしまっている。そこで、こどもを育てやすい環境、こども自身がのびのびと過ごしやすい環境を必要があるとされている。普段家ではできないような遊びができ、親子のつながり、地域とのつながり、こども同士のつながり、親同士のつながりをつくっていく。

そして、こどもとこどもを育てていく親がともに学びながら成長していくと思われる。



増井 麻乃
建築計画研究室



敷地

敷地は、静岡県榛原郡吉田町川尻、町境にある敷地周辺は駿河湾と2つの大きな川に囲まれた工場地帯である。隣接した土地には10万㎡の緑豊かな県営公園があり、町の小中学校の遠足等で利用される。週末には子連れの地域住民などが訪れ、賑わっている。この公園では年に数回近隣住民を集めた大きなイベントが行われている。

また、この地域では現在若年層夫婦が増加し、それに伴い児童の増加も見受けられる。

SP thank you...♪

risa sasaki

rui izaki

gun ikeda

yuto iida

kyohei yamamoto

kazuya hotta

ky osuke takanashi

tomoyuki mizutani

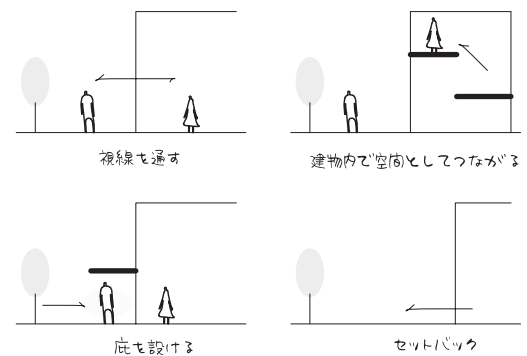
tomoya murakami

takaaki yabuki

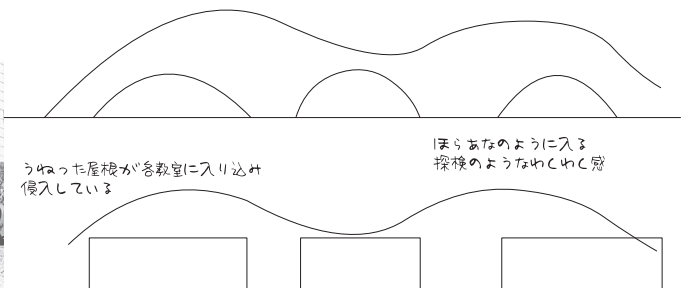
shin takahashi

takayuki murayama

sakika hasegawa



形のあかり





設計形

☆地形

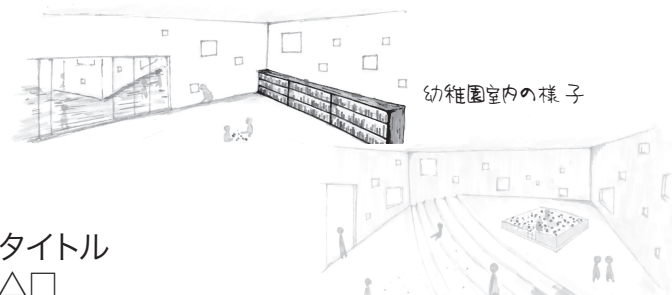
起伏を持った地形は、児童が遊ぶには最適な自然環境と考える。そして、建物内には丘や谷になった地形が入り込んでくる。それは外部と内部の境界を曖昧にするためである。また、屋外から室内、室内から屋外を見たときに自然な流れで移動できるように設置した。

☆幼稚園

児童施設の構成として箱形の建物をランダムに設置し、デッキと有機的な屋根がそれぞれの部屋をつないでいる。

☆学習施設

すべての部屋の入り口が幼稚園、グラウンドに向いて設置されている。それは、子供たちの両親、近隣住民、外部から遊びに来た人がこどもたちの様子を伺いながらこの施設にあしを踏み入れることで、コミュニティがうまれるのではと考えた。



幼稚園室内の様子

タイトル

○△□

○こども △他人 □おや の3つの要素をつなぐきっかけとなる施設をつくる。

また、人の思考はこどものうちに形成されると考え、そのかたちを○△□とあらわした。

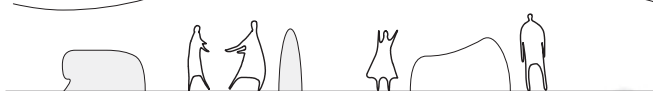
こどもの視線が抜けるか抜けないかの高さで空間を仕切る壁もたてる

こどもたちは空間の中で遊んだり、壁の向こうが気になってその先に行ってみたくなる。

先生は部屋全体に視線を抜けるこどもや

こどもの顔を見て会話するこどもがいて、

スムーズに指導が行われる。

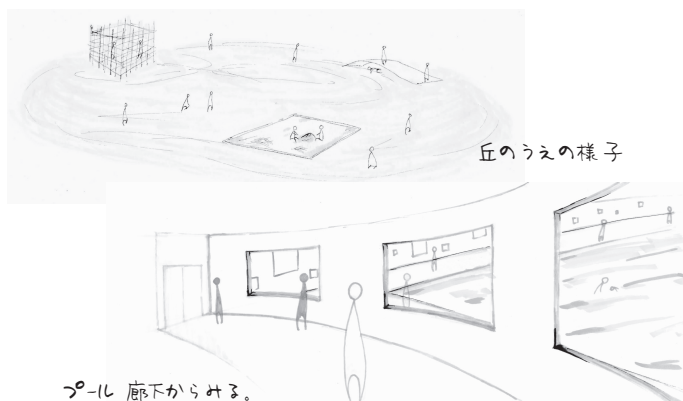


断面模型写真

プログラム

設計対象は学校であり、児童を主体とした設計を行った。その上で多様な要素を取り入れ周辺と融合する建築を提案した。児童がはじめて家の外で長時間過ごす場所として、居心地のよい空間とはなにか、また児童の教育者である親、地域住民にとっても訪れやすい場所として、隣地の公園側にプール、料理教室、音楽教室を設けた。

教室内部は家具や遊具の配置によって空間を分けることができる。年齢ごとにクラスの場所が分かれ、それぞれの学年ごとに入り口が中央に向いている。そのため教員が来客の出入りを確認し、セキュリティを確保することができる



丘のうえの様子

プール 廊下から見る。



遊戯室と体育館のつながり



迷路ゾーン

